

校舎内で作業をしていると、「ありがとうございます」という声をかけてくれる子どもたちがいます。また、上級生になると「何かお手伝いしましょうか」と言ってくれる子どももいます。もちろん、お願いするととても一生懸命に力を貸してくれます。このように子どもたちがいろいろな声をかけてくれることが嬉しいです。

私はどうなのだろう。子どもたちが嬉しいと感じることができるような声かけができているだろうか。そんなことを考え、自分の子どもたちへの接し方を振り返ります。

【通学路】

栗平駅から学校までの朝の通学路は、桐光学園に通学する児童生徒でいっぱいです。歩道は子どもが横3列以上になると、他の人の通行は困難になります。追い越すことも、すれ違うことも難しい状況です。この対策として、中高では始業時刻を10分ずらしたり、希望する生徒が黒川駅や若葉台駅からスクールバスを利用したりすることができるようにしていますが、どうしても児童生徒が集中してしまう時間帯ができてしまいます。このようなことで、栗平駅方面に歩く地元の方たちに大変なご迷惑をかけていることを申し訳なく思っています。自分で歩いてみても、登校してくる子どもたちとすれ違いながら歩くのはとても苦痛に感じます。何人かの方は歩道を歩かずに、歩道の反対側の車道の端を歩いています。歩道を歩いているときに、反対方向から人が歩いてきたらすぐに道をあけることは当然のことですし、できれば右側を一人通行できるようにしておくことが望ましいので、小学生には右側を大人が一人歩ける分だけあけるように声をかけています。自分自身の安全だけでなく、自分のまわりにいる人たちの安全にも気を配ることができる人になってほしいです。通学路だけでなく、栗平駅や電車の中でも同じです。先日、電車の中で友だちとおしゃべりに夢中になっていたりにいた方に叱られたという低学年の子たちがいました。そのときに「ごめんなさい」と言えたのはよかったです。その一言が言えたことが次につながるのだろうと思いました。

【言葉のやりとり】

どんな言葉が嬉しく、どんな言葉が嫌だったり悲しかったりするか。子どもたちは学校でそういうことも学んでいます。このような言葉のやりとりについては、家庭や地域での子ども同士のふれ合いの中で学ぶことが多かったのですが、今はなかなか地域での子ども同士の交流を多く持つことがないようです。

低学年では「フワフワことば」「チクチクことば」という言い方を用いて子どもたちの心に届く言葉の学習もしています。子どもたちは自分が言われて嬉しい言葉、そうでない言葉がどういうものであるかを知っているのですが、まだ本当の意味で身につけていないのでしょうか。つい相手が嫌な気持ちになるような言葉をつかってしまうことがあります。その原因の一つに経験の不足があるのかもしれませんが。

学校では、子ども同士の言葉のやりとりを積極的に行うことで、好ましい言葉の環境を少しずつ学び、身につくようにしていきたいです。家庭では子どもたちの言葉遣いで気になるところがあると、そのことについてしっかりと話をさせていただいていると思います。ただ、学校と違うのは、子どもが話す相手が大人であることが多いということです。そこでは少々乱暴なことや思いやりに欠けるようなことを言っても、それなりに受け止めてもらえることがあって、なかなか自分の発する言葉の重みに気付くことができないこともあるような気がします。子どもたちの使う言葉が少しでも、温かく、思いやりの心のもったものになってほしいと願います。そのように使う言葉がその子ども自身を作り上げていくと思うからです。

【5年生の学年だよりから】

5年生の学年だよりに次のような文章がありました。学校生活を、勉強と遊び、授業と休み時間というように分けて考えがちですが、授業の中でもこのような意識を持って子どもたちと向き合うことはとても大切であると考えます。・・・

国語の授業では両クラスとも、活発な意見が交わされています。周囲と違う意見でも堂々と述べることのできる子が多いこと、また友だちの意見への「つけたし」の発表の仕方も好感が持てます。

毎日の学校生活は、授業で過ごす時間が大半です。休み時間やお弁当の時間はもちろんですが、毎時間の授業こそ、コミュニケーション力や子ども同士のあるべき人間関係の基礎を築いていく場であればいけません。また、日々自分たちが使っている会話を振り返り、「正しい言葉」や「適切な表現」を共有していくことが大切です。言葉を大事にすること、またそれを通して仲間を大切にすることは、やはり日々の授業が出発点となるのです。

【つぶやき】

ぼくだけじゃない(わたしだけじゃない)と あたなは言う

それは本当ですね

でも それであなたがしたことは少しうすまるのかな

あなたはわかっているんだよね そんなことないってこと

あなたはわかっているんだよね 次に口にすべきこと

それを声に出して言うことが 勇気というものだと思うよ